



## 2020年11月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年4月3日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 エスプール

コード番号 2471 URL <https://www.spool.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 浦上 壮平

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部担当 (氏名) 佐藤 英朗 TEL 03-6859-5599

四半期報告書提出予定日 2020年4月9日 配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年11月期第1四半期の連結業績（2019年12月1日～2020年2月29日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年11月期第1四半期	4,675	20.3	386	82.8	390	80.3	302	139.9
2019年11月期第1四半期	3,888	21.0	211	26.9	216	24.5	125	16.3

(注) 包括利益 2020年11月期第1四半期 302百万円 (139.9%) 2019年11月期第1四半期 125百万円 (16.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年11月期第1四半期	3.82	—
2019年11月期第1四半期	1.60	1.59

- (注) 1. 当社は、2019年10月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」を算定しております。
2. 2020年11月期第1四半期の「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年11月期第1四半期	8,487	3,181	37.5	40.25
2019年11月期	8,659	3,035	35.1	38.42

(参考) 自己資本 2020年11月期第1四半期 3,179百万円 2019年11月期 3,035百万円

(注) 当社は、2019年10月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり純資産」を算定しております。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年11月期	—	0.00	—	2.00	2.00
2020年11月期	—	—	—	—	—
2020年11月期（予想）	—	0.00	—	3.30	3.30

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2019年11月期期末配当金の内訳 普通配当 1円40銭 記念配当 0円60銭

### 3. 2020年11月期の連結業績予想（2019年12月1日～2020年11月30日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	9,633	16.1	788	3.3	782	0.5	509	2.6	6.45
通期	20,636	17.8	2,000	24.7	1,988	22.3	1,288	19.0	16.31

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年11月期 1 Q	79,007,500株	2019年11月期	79,007,500株
② 期末自己株式数	2020年11月期 1 Q	3,855株	2019年11月期	3,855株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年11月期 1 Q	79,003,645株	2019年11月期 1 Q	78,899,040株

(注) 当社は、2019年10月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料の「1. 当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報) .....	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国の経済は、通商問題を巡る動向や英国のEU離脱の影響に加え、消費税率引上げの影響などが懸念されたものの、企業収益や雇用情勢の改善が続いており、景気は緩やかに回復してまいりました。一方で、新型コロナウイルス(COVID-19)の感染が世界各地に広がっており、今後の世界経済への影響が懸念されています。

当社グループにおいては、新型コロナウイルスの影響は現時点では軽微にとどまっており、人材派遣サービスが引き続き堅調に推移したほか、障がい者雇用支援サービスについても農園の設備販売、管理収入が順調に増加しました。損益面においては、主力の人材派遣サービス、障がい者雇用支援サービスの売上増に伴う利益増に加え、採用支援サービスの収益改善により、営業利益は大幅増加となりました。なお、当連結会計年度においては、環境変化に強いバランスの取れたポートフォリオ経営の推進のために、①安定収益基盤の底上げ、②新たな収益機会の獲得、③外部連携強化によるイノベーションの加速の3点を基本方針として事業を推進していく所存であります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は4,675百万円(前年同四半期比20.3%増)、営業利益は386百万円(前年同四半期比82.8%増)、経常利益は390百万円(前年同四半期比80.3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は302百万円(前年同四半期比139.9%増)となりました。

2020年11月期第1四半期連結累計期間 連結業績

(単位：百万円)	2019年11月期 第1四半期	2020年11月期 第1四半期	増減率
売上高	3,888	4,675	20.3%
営業損益	211	386	82.8%
経常損益	216	390	80.3%
親会社株主に帰属する 四半期純損益	125	302	139.9%

当第1四半期連結累計期間のセグメント経営成績(セグメント間内部取引消去前)は以下のとおりであります。

①ビジネスソリューション事業

ビジネスソリューション事業では、シニアや障がい者など潜在労働力の活用を支援するサービスや、企業の業務の一部を受託するアウトソーシングサービスを提供しています。前者においては、株式会社エスプールプラスが、障がい者雇用を希望する企業に同社が運営する農園を貸し出し、主に知的障がい者を企業が直接雇用し、収穫した野菜を従業員の健康促進に役立てる福利厚生プログラムの提供を行っています。また、株式会社エスプールでは、様々な経験やノウハウを有するシニアを企業の経営課題や業務課題の解決に役立てるプロフェッショナル人材サービスを提供しています。

後者のアウトソーシングサービスでは、株式会社エスプールロジスティクスが、通販企業の商品の発送代行サービスを提供しています。また、株式会社エスプールリンクでは、アルバイトやパートの求人応募の受付を代行する採用支援サービスを提供しており、株式会社エスプールセールスサポートでは、対面型の会員獲得業務やキャンペーンやラウンダー等の販売促進業務を行っています。

当第1四半期連結累計期間は、障がい者雇用支援サービスにおいては、来年の法定雇用率引き上げに向けた準備が大企業を中心に活発化しており、農園の設備販売と管理収入が大きく増加しました。また、採用支援サービスについても、応募受付数が伸びたことで売上を順調に伸ばすことができました。損益面では、障がい者雇用支援サービスの設備販売による利益が大幅増となったほか、採用支援サービスについても、センターの稼働率向上により着実に利益を確保することができました。その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1,222百万円（前年同四半期比15.9%増）、営業利益は307百万円（前年同四半期比89.1%増）となりました。

②人材ソリューション事業

人材ソリューション事業は、人材派遣、人材紹介サービスを主力とする株式会社エスプールヒューマンソリューションズが提供するサービスで、コールセンターや事務センター等のオフィスサポート業務と、スマートフォンや家電製品等の店頭販売支援業務に関する人材サービスを展開しております。

当第1四半期連結累計期間においては、企業の人材不足感は引き続き強く、主力のコールセンター業務において、未経験者の即戦力化に長けたグループ型派遣サービスの売上が順調に増加しました。また、地域別では、集中的に支店展開をしている札幌、東京（新宿）、大阪、博多エリアが高い伸びを示しました。損益面においては、売上増による利益増に加え、効率的な支店運営によって販売費及び一般管理費の増加をある程度抑制することができたことで、大幅な増益となりました。その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は3,462百万円（前年同四半期比21.8%増）、営業利益は352百万円（前年同四半期比29.8%増）となりました。

2020年11月期第1四半期連結累計期間 セグメント別業績

売上高（単位：百万円）	2019年11月期 第1四半期	2020年11月期 第1四半期	増減率
報告セグメント	3,896	4,684	20.2%
ビジネスソリューション事業	1,054	1,222	15.9%
人材ソリューション事業	2,842	3,462	21.8%
調整額	△8	△8	－%
合計	3,888	4,675	20.3%

営業利益（単位：百万円）	2019年11月期 第1四半期	2020年11月期 第1四半期	増減率
報告セグメント	433	659	52.1%
ビジネスソリューション事業	162	307	89.1%
人材ソリューション事業	271	352	29.8%
調整額	△222	△272	－%
合計	211	386	82.8%

(2) 財政状態に関する説明

①資産

当第1四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末から540百万円減少し、4,493百万円となりました。人材ソリューション事業を中心として売上が増加しておりますが、障がい者雇用支援事業の農園建設を中心とした投資活動による支出や法人税等及び消費税等の支払等が売上債権の回収を上回り、現金及び預金が658百万円減少しております。

当第1四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末から367百万円増加し、3,993百万円となりました。障がい者雇用支援サービス拡大のため、株式会社エスプールプラスにて、あいち東海ファーム及び船橋第三ファーム等の新規農園の建設や既存農園の増設をしており、有形固定資産が365百万円増加しております。

②負債

当第1四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末から408百万円減少し、4,197百万円となりました。前述の納税や投資活動による支出等に備えて短期借入金を200百万円借り増ししております。一方、納税により未払法人税等が331百万円減少しております。また、賞与の支払により賞与引当金が90百万円、消費税等の支払等によって流動負債その他が57百万円、未払給与を中心とする未払費用が55百万円それぞれ減少しております。

当第1四半期連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末から89百万円増加し、1,107百万円となりました。長期借入金の返済により21百万円減少し、農園の新規建設等により資産除去債務が48百万円、繰延税金負債が61百万円それぞれ増加しております。

③純資産

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益により302百万円増加し、一方、第20期期末配当により158百万円減少し、3,181百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

新型コロナウイルス感染症が世界的に広がっておりますが、現時点では当社の業績に大きな影響を与えるほどの事象は発生しておりませんので、2020年1月14日に公表いたしました2020年11月期の第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。今後、状況が大きく変化し、業績予想を修正する必要がある場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年11月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年2月29日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,119	1,461
受取手形及び売掛金	2,628	2,614
商品	6	8
その他	288	418
貸倒引当金	△8	△8
流動資産合計	5,034	4,493
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,702	3,055
その他(純額)	448	460
有形固定資産合計	3,151	3,516
無形固定資産	94	96
投資その他の資産		
繰延税金資産	61	19
その他	331	375
貸倒引当金	△13	△13
投資その他の資産合計	379	380
固定資産合計	3,625	3,993
資産合計	8,659	8,487
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	178	158
短期借入金	1,450	1,650
1年内返済予定の長期借入金	127	114
未払法人税等	416	84
未払費用	1,154	1,098
賞与引当金	131	40
役員賞与引当金	40	—
その他	1,107	1,050
流動負債合計	4,605	4,197
固定負債		
長期借入金	514	492
繰延税金負債	10	71
資産除去債務	463	512
その他	29	30
固定負債合計	1,018	1,107
負債合計	5,623	5,305
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	372	372
資本剰余金	222	222
利益剰余金	2,441	2,585
自己株式	△0	△0
株主資本合計	3,035	3,179
非支配株主持分	—	1
純資産合計	3,035	3,181
負債純資産合計	8,659	8,487

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年12月1日 至 2019年2月28日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年12月1日 至 2020年2月29日)
売上高	3,888	4,675
売上原価	2,893	3,364
売上総利益	994	1,311
販売費及び一般管理費	783	924
営業利益	211	386
営業外収益		
受取利息	0	0
助成金収入	6	6
その他	0	0
営業外収益合計	6	7
営業外費用		
支払利息	1	3
営業外費用合計	1	3
経常利益	216	390
特別利益		
固定資産売却益	0	—
特別利益合計	0	—
特別損失		
固定資産除却損	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前四半期純利益	217	390
法人税、住民税及び事業税	32	△16
法人税等調整額	58	104
法人税等合計	91	88
四半期純利益	125	302
親会社株主に帰属する四半期純利益	125	302

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年12月1日 至 2019年2月28日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年12月1日 至 2020年2月29日)
四半期純利益	125	302
四半期包括利益	125	302
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	125	302
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

前第1四半期連結累計期間(自 2018年12月1日 至 2019年2月28日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ビジネスソリューション事業	人材ソリューション事業	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	1,049	2,838	3,888	—	3,888
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	5	3	8	△8	—
計	1,054	2,842	3,896	△8	3,888
セグメント利益	162	271	433	△222	211

(注) 1. セグメント利益の調整額△222百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△222百万円であります。全社費用は、当社の管理部門に係わる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 2019年12月1日 至 2020年2月29日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ビジネスソリューション事業	人材ソリューション事業	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	1,216	3,459	4,675	—	4,675
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	5	2	8	△8	—
計	1,222	3,462	4,684	△8	4,675
セグメント利益	307	352	659	△272	386

(注) 1. セグメント利益の調整額△272百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△272百万円であります。全社費用は、当社の管理部門に係わる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。